

校長室からのお知らせ

11月18日号 NO.29

岸和田市立山直北小学校
校長 尾野 武志

学級通信より

学級担任をしていた頃に配っていた「いつでも いつまでも 6年1組 どこでも どこまでも 6年1組」という学級通信を読み返す機会があり、少し紹介してみたくなりましたので、紙面を頂戴いたします。国語の授業で6年生が作った「冬の俳句」を載せていました。上の少し大きい太字が子どもの作った俳句で、その下がまだ40代の尾野がつけたコメントです。

山達は 雪のドレスに 身をつつむ

才能のかたまりですね。こんな発想ができる感性にあこがれます。

ストーブの 前で動かず 一時間

姿が目には浮かび笑ってしまいました。これもさすがです。

クリスマス 今年もなかった プレゼント

少し悲しいような気持ちにもなりますが、6年生だからこそ笑って読める俳句だと思います。

なつかしい あのころクーラー いまダンボー

「ダンボー」のカタカナ表記がまず素晴らしいです。詳しい解説はできませんが、深い意味を感じさせてくれる私の中の一番のお気に入り作品です。

このように改めて文章にしてみますと、小学生の子どもの才能ってすごいと感じます。きちんと季語が入っており、それぞれの俳句の景色が目には浮かぶようであり、6年生の子どもとは思えない豊かな感性があふれていると思います。最近は、「俳句」と検索すれば様々なテーマに合った作品が閲覧でき、中には人が作った俳句をそのまま応募するというような悲しいことも起こっています。苦勞してひねり出した俳句だからこそ、価値があると思います。